

2023年度 第1回九大本番レベル模試（文学部） 国語 採点基準

①（評論）採点基準（合計〓45点）

☆②の現代文の配点は、「内容点」（ABC・・・）と「構造点」（XYZ・・・）で構成されます。また、内容点は各条件内に要素（①②③・・・）が3つ以上あり、得点がある場合、満点の範囲内で要素点が1点プラスされます。

問1 8点

（模範解答例）

A①〇1点 A②〇1点 A③〇1点 A④〇1点

人間の欲望には、主体と対象と、同時に媒体が関与して、三重の関係をなし、〈A4点

B①〇1点

主体はその欲望を対象への嗜好や関心によるものとするが、〈B1点

C①〇1点 C②〇1点

実は媒介者の欲望を、模倣した結果に過ぎないと見なせるから、〈C2点

X〈逆説〉↓A・B・Cのうち、2要素以上に〇↓+1点

（内容【7点】+構造【1点】〓8点）

【構造点】

☆Xは、傍線部の「理由」を説明すべく、ジラールによる「欲望」の端的な説明であるAを、B、Cの

〈矛盾〉する二要素——Bは譲歩的な内容、Cが説明の本体——に引き裂いて説明する〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈Aの要素、条件B、Cの要素〉内の二種二つ以上があれば

この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説〓矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、条件B、Cの要素〉の内の二種二つ以上 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X（1点）は、右に示した要素を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「人間の欲望には主体と対象と同時に媒体が関与して三重の関係をなし」〈4点

※ 傍線部を説明するための、ジラールによる「欲望」の端的な説明の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点（4点）内で、得点があれば要素点+1点（3要素以上があれば4点、2要素なら3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点。）

① 「人間の欲望には」の要素。（1点）

× 「人間の欲望」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「主体と対象と」の要素。（1点）

○ 「主体としての私と対象と」「主体と客体と」などでも可。

× 「主体と対象」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

- ③ 「同時に媒体が関与して」の要素。(1点)
- 「のみならず媒体も存在して」「媒介者も関わって」などでも可。
 - ✕ 「媒体の関与」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

④ 「三重の関係をなし、」の要素。(1点)

- 「三角構図をなし、」「三重関係を構成し、」などでも可。
- ✕ 「三重の関係」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「主体はその欲望を対象への嗜好や関心によるものとするが、」〈1点〉

- ※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく譲歩的な条件。
- 「主体は自らの欲望を客体への好みや関心によるものとするが、」「主体はその欲求を対象へと向う嗜好や興味によるものとするが、」などでも可。
- ✕ 「主体の欲望」「対象」「嗜好」「関心(どちらかに相当するものがあればよい)」のニュアンスの三成分が入っていないければ✕。

C 「実は媒介者の欲望を模倣した結果に過ぎないと見なせるから。」〈2点〉

- ※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく、Bとは矛盾する本体的な条件。

① 「実は媒介者の欲望を」の要素。(1点)

- 「実際は媒介者の欲望を」「本当は媒介者の欲求を」などでも可。
- ✕ 「媒介者の欲望」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「模倣した結果に過ぎないと見なせるから。」の要素。(1点)

- 「真似ただけに過ぎないと判断できるから。」「繰り返し続けた結果だと思えるから。」などでも可。
- ✕ 「模倣」「見なせる」のニュアンスの二成分が入っていないければ✕。

問2 6点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

〈A3点〉

宣伝広告の氾濫する現代において 私たちの欲望が その対象の使用者への憧れに基づいていたり、

B①〇1点

B②〇1点

人生にとって重要な、志望校、恋愛相手の選択等が 他者の欲望に従ったものと見えるとき。〈B2点〉

X〈分析〓分けること〉↓A・Bの両方の要素に〇↓11点

(内容【5点】+構造【1点】〓6点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の「とき」を、A、Bの〈矛盾〉しない具体的な二条件に〈分析〓分けること〉して説明してゆく構造への評価である。この際は、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析〓分けること〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した、条件を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「宣伝広告の氾濫する現代において、私たちの欲望がその対象の利用者への憧れに基づいていたり、」〈3点〉

※ 傍線部の「とき」を具体的に説明する「宣伝広告の氾濫する現代」の側の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点(2要素以上があれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点。)

① 「宣伝広告の氾濫する現代において、」の要素。(1点)

○ 「コマースの氾濫する今、」宣伝広告で充満させられた現代において、」などでも可。

✕ 「宣伝広告の氾濫する現代」のニュアンスの成分が入っていないと✕。

② 「私たちの欲望が」の要素。(1点)

○ 「我々の欲望が」「私たちの欲求が」などでも可。

✕ 「(私たちの)欲望」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

③ 「その対象の利用者への憧れに基づいていたり、」の要素。(1点)

○ 「その客体の利用者への憧憬から発していたり、」「その対象利用者への憧れに根拠が求められたり、」などでも可。

✕ 「対象の利用者」「憧れに基づく」のニュアンスの二成分が入っていないければ✕。

B 「人生にとって重要な、志望校、恋愛対象の選択等が他者の欲望に従ったものと見えるとき。」〈2点〉

※ 傍線部の「とき」を具体的に説明する「人生にとって重要なもの」の側の条件。

① 「人生にとって重要な、志望校、恋愛対象の選択等が」の要素。(1点)

○ 「人生において大切な、志望校、職業、居住地などの選択が」「人生で軽視できない、職業、恋愛対象などの選択が」などでも可。

✕ 「人生にとって重要」「志望校 or 職業 or 居住地 or 恋愛対象(どれか一つがあればよい)の選択」のニュアンスの二成分が入っていないければ✕。具体例が1つ以上入っていない場合は✕。

② 「他者の欲望に従ったものと見えるとき。」の要素。(1点)

○ 「他者の欲望を模倣したものと見えるとき。」「誰かの欲望にならったものと見えるとき。」などでも可。
✕ 「他者の欲望に従ったものと見える」のニュアンス成分が入っていないければ✕。

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

媒体と主体の願望可能圏が離れている「外的媒介」ではなく、多少とも重なり合う「内的媒介」では、〈A 2点〉

B①〇1点 B②〇1点

模倣を通して、「一見相手と通じる友好・友情の要素が得られるかのように見えて、〈B 2点〉

C①〇1点 C②〇1点 C③〇1点

実は互いが欲望実現のための「障害」となり、対立や軋轢の関係に入って、憎悪、嫉妬、敵意等を生むと

考えるから。〈C 3点〉

X〈逆説〉ABCの2つ以上に〇↓1点

(内容【7点】+構造【1点】=8点)

【構造点】

Xは、傍線部の理由を説明すべく、「外的媒介」と異なる「内的媒介」の条件であるAを、〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明する〈逆説=矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈逆説=矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点(の採点のポイント)は以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「媒体と主体の願望可能圏が離れている『外的媒介』ではなく、多少とも重なり合う『内的媒介』では、」〈2点〉

※ 傍線部の理由説明をするための、「外的媒介」ならぬ「内的媒介」の条件。

①「媒体と主体の願望可能圏が離れている『外的媒介』ではなく、」の要素。(1点)

○「媒介者と主体の願望可能圏が重ならない『外的媒介』ではなく、」**「弟子とモデルの願望可能圏が乖離した『外的媒介』ではなく、」**などでも可。

×「媒体と主体の願望可能圏が離れている『外的媒介』の否定のニュアンスの成分が入っていないければ×。

×単に「外的媒体」のみでは不可×。

②「多少とも重なり合う『内的媒介』では、」の要素。(1点)

○「ある程度それぞれの圏が重複する『内的媒介』では、」**「多かれ少なかれ両者が重なり合う『内的媒介』では、」**などでも可。

×「(多少とも)重なり合う『内的媒介』のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B「模倣を通して、一見相手と通じる友好・友情の要素が得られるかのように見えて、」〈2点〉

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明する一方の条件。

①「模倣を通して、」の要素。(1点)

○「模倣を媒介にして、」**「模倣によって」**などでも可。

×「模倣」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「一見相手と通じる友好・友情の要素が得られるかのように見えて、」の要素。(1点)

○「一見すると共有しうる友好関係に入る要素が得られるようにみえながら、」
「外見上は共にしうる友情を交わす要素が得られるように思えるが、」などでも可。

✕「(一見相手と通じる) 友好 or 友情 (どちらかがあればよい) の要素が得られるように見える」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C「実は互いが欲望実現のための『障害』となり、対立や軋轢の関係に入って、憎悪、嫉妬、敵意等を生むと考えるから。」(3点)

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明するための、Bとは(矛盾)する他方の条件。

以下の**3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点(2要素以上があれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点。)**

①「実は互いが欲望実現のための『障害』となり、」の要素。(1点)

○「実際は相互に対象を巡って『障害』となり、」「現実にはお互いに欲望実現のための邪魔となり、」などでも可。

✕「互いに欲望実現(対象を巡る)の障害」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「対立や軋轢の関係に入って、」の要素。(1点)

○「対立関係に入って、」「軋轢を抱えた関係に入り、」などでも可。

✕「対立 or 軋轢 (どちらかに相当するものがあればよい) の関係」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

③「憎悪、嫉妬、敵意等を生むと考えるから。」の要素。(1点)

○「憎悪、恨み、嫉妬などを生むと思われるから。」「嫉妬、羨望、敵意等を引き起こすと考えられるか or。」などでも可。

✕「憎悪 or 恨み or 嫉妬 or 羨望 or 敵意 (どれかが入っていればよい) を生む」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

(模範解答例)

A ○1点

内的媒介の関係では、〈A 1点〉

B ○1点

主体が媒介者の欲望を模倣したように、〈B 1点〉

C ○1点

媒介者も主体の欲望を模倣して、〈C 1点〉

D ①○1点

X 〈分析〉ABCのうち2つ以上に○↓+1点

D ②○1点

互いに循環するように欲望が強化されて激烈な情熱を生み、その結果対立が強化されること。〈D 2点〉

Y 〈総合〉Dに○↓+1点

(内容【5点】+構造【2点】=7点)

【構造点】

☆ Xは、傍線部の説明をすべく、話題のAを〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析||分けること〉として説明する構造への評価である。――向きが反対である所に〈矛盾〉をみて〈逆説||矛盾を含むこと〉と解釈することもできる。ここでは、条件A、B、Cの内の二つがあればこの構造が暗黙裡に構想されているとみなして1点加算。

X 〈分析||分けること〉 〈A、B、C〉の内の二つ以上 ○1点

・ Yは、B、CをDにまとめて結論づける〈総合||まとめること〉の構造への評価である。ここでは条件Dの要素が一つ以上あればこの構造が暗黙裡に構想されたとみなして1点加算。

Y 〈総合||まとめること〉 Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「内的媒介の関係では、」〈1点〉

※傍線部の説明をするための話題の条件。

✖ 「内的媒介」の成分が入っていないければ✖。

B 「主体が媒介者の欲望を模倣したように、」〈1点〉

※傍線部の説明をすべく、Aを説明する一方の条件。

○ 「主体が媒体の欲望を模倣したことく、」 「弟子がモデルの欲望を模倣したように、」 などでも可。

✖ 「主体が媒介者の欲望を模倣」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

C 「媒介者も主体の欲望を模倣して、」〈1点〉

※傍線部の説明をすべく、Aを説明する他方の条件。

○ 「媒体も主体の欲望を模倣して、」 「モデルも弟子の欲望を模倣して、」 などでも可。

✖ 「媒介者も主体の欲望を模倣」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

D 「互いに循環するように欲望が強化されて激烈な情熱を生み、その結果対立が強化されること。」〈2点〉

※B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「互いに循環するように欲望が強化されて激烈な情熱を生み、」の要素。(1点)

○ 「相互に循環して欲望が強さを増して激しい情熱をもたらし、」 「交互に繰り返されて欲求が強化され、猛

烈な情熱を掻き立て、「などでも可。

✕ 「(互いに) 循環する」「欲望の強化」「激烈な情熱」のニュアンスの三成分が入っていないければ✕。

② 「その結果対立が強化されること。」の要素。(1点)

○ 「結果的に葛藤が強化されること。」「軋轢の激化をもたらすこと。」などでも可。

✕ 「対立の強化」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

問5 8点

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇1点

模倣が 反響、連鎖、相互影響し合う状態になると、〈A 2点〉

B①〇1点

B②〇1点

〈B 2点〉

主体(弟子)とモデルという立場上の違いが消滅し、誰のものともつかない欲望に身を委ねる両者がいるだけで、

C①〇1点 C②〇1点 C③〇1点

同一化の中で 敵対者たちは 互いの分身となっていく、と与えられている。〈C 3点〉

X 〈分析〉ABCの2種2つ以上に〇↓1点

(内容【7点】+構造【1点】=8点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の筆者による捉え方を説明すべく、前提条件のAを、〈因果関係〉をなす〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉として説明してゆく構造への評価である。ここでは、A、B、Cの要素が二種二つ以上あれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているものとみなして1点加算。

X 〈分析〓分けること〉 〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「模倣が反響、連鎖、相互影響し合う状態になると、」〈2点〉

※傍線部の筆者の捉え方を説明するための前提条件。

① 「模倣」の要素。(1点)

✕ 「模倣」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「反響、連鎖、相互影響し合う状態になると、」の要素。(1点)

○ 「反響、相互影響する状況になると、」「連鎖、相互影響の状態に入ると、」などでも可○。

✕ 「反響 or 連鎖 or 相互影響 (どれか一つがあればよい)」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「主体(弟子)とモデルという立場上の違いが消滅し、誰のものともつかない欲望に身を委ねる両者がいるだけで、」〈2点〉

※傍線部の筆者の捉え方を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈因〉の条件。

① 「主体(弟子)とモデルという立場上の違いが消滅し、」の要素。(1点)

○ 「主体と媒体という立場の違いがなくなり、」「弟子とモデルという立場上の相違が消えてしまい、」など

でも可○。

✖ 「主体(弟子)とモデルの立場上の違いの消滅」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「誰のものともつかない欲望に身を委ねる両者がいるだけで、」の要素。

○ 「誰のものか特定できない欲望に身を任せる両者が存在するだけで、」「誰のものとも知れぬ欲望に流される二人がいるだけで、」などでも可○。

✖ 「誰のものともつかない欲望」「身を委ねる両者がいる」のニュアンスの二成分が入っていないければ✖。

C 「同一化の中で敵対者たちは互いの分身となっていく、ととらえている。」〈3点〉

傍線部の筆者の捉え方を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈果〉の条件。

以下の**3要素に分けて採点。満点(3点)内、得点があれば要素点+1点(2要素以上があれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点。)**

①「同一化の中で」の要素。(1点)

○ 「同一性が完成されたとき、」「同一化の過程を経て」などでも可○。

✖ 「同一化」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「敵対者たちは」の要素。(1点)

✖ 「敵対者」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③「互いの分身となっていく、ととらえている。」の要素。(1点)

○ 「分身になってしまうと把握している。」「相互に分身と化すと判断している。」などでも可○。
✖ 「分身となるととらえている」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問6 8点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

シラールの言うように、

共同体内で特定個人に暴力を集中して

スケープゴートにするのではなく、〈A3点〉

B①○1点

B②○1点

B③○1点

B④○1点

暴力の根本因である

「同一化」を回避し、

差異を回復するために意識的に新しい「自己同一性」を

獲得してゆくこと。〈B4点〉

(内容【7点】+構造【1点】=8点)

X〈分析〉AとBに○→1点

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、〈notP~butQ〉の構文を形成する〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析〳分けること〳〉して説明して

いく構造への評価である——〈notP~butQ〉の構文は例えば〈女じゃないよ、男だよ〉のように、〈否定(not)〉の成分が入るこ

とによって、〈矛盾〉を排除して、〈女じゃないよ、男だよ〉のように二要素間に〈分析〳分けること〳〉する構造を作りだす——。

ここではA、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈分析〳分けること〳〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「ジラルルの言うように、共同体内で特定個人に暴力を集中してスケープゴートにするのではなく、」(3点)

※傍線部を、〈notP〉butQ〉の構文で説明してゆく〈notP〉の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点(2要素以上があれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていなければ0点。)

①「ジラルルの言うように、」の要素。(1点)

×「ジラルル」の成分が入っていなければ×。

②「共同体内で特定個人に暴力を集中して」の要素。(1点)

○「コミュニティ内で標的とされた個人に暴力を集中し」「共同体の中の一定個人に暴力を焦点化し」などでも可○。

×「共同体内の特定個人に暴力を集中」のニュアンスの成分が入っていなければ×。

③「スケープゴートにするのではなく、」の要素。(1点)

○「贖いの山羊とするのではなく、」「供犠の対象とするのではなく」などでも可○。

×「スケープゴートの否定」のニュアンスの成分が入っていなければ×。

B 「暴力の根本因である『同一化』を回避し、差異を回復するために意識的に新しい「自己同一性」を獲得してゆくこと。」(4点)

※傍線部を、〈notP〉butQ〉の構文で説明してゆく〈butQ〉の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点(3要素以上あれば4点、2要素以上があれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていなければ0点。)

①「暴力の根本因である」の要素。(1点)

○「暴力がそこから生まれる」「暴力の根源である」などでも可○。

×「暴力の根本因」のニュアンスの成分が入っていなければ×。

②『同一化』を回避し、」の要素。(1点)

○『同一化』を排除し、』『同一性』を求めず」などでも可○。

×『同一化』の回避」のニュアンスの成分が入っていなければ×。

③「差異を回復するために」の要素。(1点)

○「相違を復活させるために」「差異を取り戻すために」などでも可○。

×「差異の回復」のニュアンスの成分が入っていなければ×。

④「意識的に新しい『自己同一性』を獲得してゆくこと。」の要素。(1点)

○「意識的新たな『自己同一性』を生み出してゆくこと。」「意識的に新しい『アイデンティティ』を創りだしていくこと。」などでも可○。

×「意識的」「新しい『自己同一性』の獲得」のニュアンスの二成分が入っていなければ×。

二 (古文) 採点基準 (文Ⅱ30点)

問1 各2点×4＝8点

「傍線部①」「さてなんむあるとも聞こえなむ」の現代語訳。

A○1点

B○1点

(模範解答例) 法師になったという噂も きっと伝わってくるだろう。【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「法師になったという噂も」(1点)

※ 「さてなんむあるとも」の解釈

※ 指示副詞「さ」の指す内容(良少将が)法師になったという噂／出家したという話)が具体化されていない者は不可※。

○ 「良少将」の記載は不問。

B 「きっと伝わってくるだろう」(1点)

※ 「聞こえなむ」の解釈。

○ 「なむ」を強意＋推量と判断し「きっと…だろう」と判断して訳してあること。

○ 「聞こゆ」は「聞こえてくる」のような解釈でも可○。

「傍線部②」「妻子どもはさぶにもいはず」の現代語訳。

A○2点

(模範解答例) 妻子などはさぶにもいはず【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「いにもおよばず」(2点)

※ 「さぶにもいはず」の解釈

○ 「言うまでもなく」のニュアンスで○。

○ 「もちろんのこと」でも可○。

▲ 「妻子どもは」は加点対象ではないが、抜けている場合は▲1点減点。

〔傍線部③〕「なほ世に経じとなむ思ふ」の現代語訳。

A〇1点 B〇1点

(模範解答例) やはり 俗世間に留まっていたくないと思う。【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A「やはり」(1点)

※「なほ」の解釈

✕「いまだ」は不可✕。

B「俗世間に留まっていたくない」(1点)

※「世に経じ」の解釈。

○「出家をせずにいる・俗世間に留まる」+「したくない」打消意志(「じ」)。

✕「世に経」を「世間で生きる」のようにしているものは不可✕。

〔傍線部④〕「この少将の手に見なしつ」の現代語訳。

A〇1点

B〇1点

(模範解答例) この良少将の筆跡と 判断したのであった。【2点】

☆各加点要素の加点の条件

A「この良少将の筆跡と」(1点)

※「この少将の手に」の解釈

○「手」は「筆跡」と訳してあること。

B「判断したのであった」(1点)

※「見なしつ」の解釈。

○「見なしつ」が「判断する・判明する」+完了の意。完答。「見なした」のままは不可✕とする。
○「わかった・気づいた・思われた」は可とする。

問2 3点

(解答) え

1

※「ちりばかりもさるけしきを見せざりけり」の現代語訳

(模範解答例) ほんの少しも 出家したいというそぶりを 見せなかった。 【4点】
A○(前半) B○2点 A○2点

☆各加点要素の加点の条件

A「ほんの）少しも…見せなかった」(2点)

※「ちりばかりもく見せざりけり」の現代語訳。

○「ちりばかりもく見せざりけり」は「まったく・けっして・少しも・全然くなかった」の意の全部否定
＋過去。

※「少しも」のような否定を強調する言葉が無くて、単なる否定の場合は不可✕。

B「出家したいというそぶりを」(2点)

※「さるけしきを」の現代語訳。

✕「さる」の内容を明示する指示あり。「そのような」のようにしているものは不可✕。

○「けしき」は「そぶり」「ようす」などで○。

✕「けしき」「景色」は当然不可✕。

○「出家を望んでいる様子」などでも可○。

2

※「ちりばかりもさるけしきを見せざりけり」のように少将がふるまった理由。

A○1点 B○2点
(模範解答例) 出家することを告げたとしたら大いに落胆するであろうし、 自分も出家することができ
なくなりそうだった から。 【4点】
C○1点

☆各加点要素の加点の条件

A「出家することを告げたとしたら大いに落胆するであろうし」(1点)

※直後の「女も、いみじと思ふ」の内容。

○「出家したら（妻や子が）悲しみに打ちひしがれる」という内容で○。

B「自分も出家することができなくなりそうだった」(2点)

※直後の「われも、えかくなるまじき心地」の内容。

○「そのせいで」出家をすることができなくなってしまう」という内容に○。

▲「まじき」は不可能の意味。そうならないものは▲1点減点で△1点。

C「から」(1点)

○原因理由の文末表現。

✖この箇所だけ正解では加点しない。他に得点がある場合のみ加点対象。

問4 4点

※「されど念じて」が誰のどのような様子か説明する。

A○1点

B○1点

C○2点

(模範解答例)

良少将の、自分を慕い泣き続ける妻の声を聞きながらも逢いたいのを耐え忍ぶ様子。

【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A「良少将の」(1点)

※「誰の」の説明。

○「少将の」でも○。

B「自分を慕い泣き続ける妻の声を聞きながら」(1点)

※「どのような様子」の説明①。

✖愛しい妻子の泣く声を耳にしつつという内容。「妻(子)」の抜けているのは不可✖。

C「逢いたいのを耐え忍ぶ様子」(2点)

※「どのような様子」の説明②。

○「逢いたい(のを)」＋「我慢する」の解釈。

✖「逢いたい(のを)」＋「我慢する」の両方の要素がなければ✖。

問5 5点

※「みな人は花の衣になりぬなり苔のたもとよかわきだにせよ」の和歌を内容を補いつつ現代語訳する。

A○2点

(模範解答例)

一周忌が過ぎ私以外の人は華やかな普段着になってしまったようだなあ。

B○1点

C○2点

出家した私の粗末な僧衣よ。せめて涙だけでも乾いてはくれまいか。【5点】

☆各加点要素の加点の条件

A「一周忌が過ぎ私以外の人は華やかな普段着になってしまったようだなあ」(2点)

※「みな人は花の衣になりぬなり」の現代語訳。

○「花の衣になりぬなり」の「花の衣」が(一周忌が経過し)普段着に戻ったというふうに解釈されてい

れば○。

- 「普段着」に戻ったのは自分以外であることが分かれば○。
- 「普段着になる」は「普段着に着替える」でももちろん○。
- 「なりぬなり」の「なり」が動詞「成る」、「ぬ」が完了、「なり」が伝聞・推定の助動詞であることがそれぞれ解釈に生かされていれば○。

- ▲ 「(てしまつ)た」(完了)、「ようだ」(伝聞推定)のうちどちらかのニュアンスが欠けてている場合、▲ 1点減点。

B 「出家した私の粗末な僧衣よ。」(1点)

※ 「苔のたもとよ」の現代語訳。

- 「苔のたもと」が良少将の着ている僧衣であることがわかれば○。
- × 「苔のたもと」のママは不可×。
- × 「喪服」などとしているものは不可×。
- × 「粗末」のような、「華やか」の対比となる言葉が無い場合不可×。

C 「せめて涙だけでも乾いてはくれまいか。」(2点)

※ 「かわきだにせよ」の現代語訳

- 「だに」が「せめてくだけでも」という希望の最小の用法で解釈されていれば○。
- × 「だに」を「すら」「さえ」と訳している場合は不可×。
- × 「乾く」対象として「涙」が述べられていない場合は不可。
- ▲ 「せよ」が命令形の解釈になっていない場合、▲ 1点減点

問6 2点

(4)

三(古文) 採点基準 (30点)

問1 各3点×3＝9点

「傍線部①」「二人して時のなからばかり申さる」の現代語訳。

A○1点 B○2点

(模範解答例) 二人で「一時間ほど念仏をお唱えする」。**【3点】**

☆各加点要素の加点の条件

A「二人で」(1点)

※「二人して」の現代語訳

○「して」が「〜で・〜とともに」の意の格助詞「して」の動作の共同者の用法になっていれば○。

B「一時間ほど念仏をお唱えする」(2点)

※「時のなからばかり申さる」の現代語訳

○「時のなからばかり」が「一時間ほど」、「申さる」が「念仏を唱える」になっていれば○。

○「一時間」は「一時の半分」「半時」でも可。

「傍線部②」「おどろかして念仏申させ奉らん」の現代語訳。

A○1点

B○2点

(模範解答例) 目をさまさせてから 念仏を唱え申し上げさせよう。**【3点】**

☆各加点要素の加点の条件

A「目をさまさせてから」(1点)

※「おどろかして」の現代語訳。

○「おどろかす」が「目をさまさせる」の意になっていれば○。「起こして」○とする。

B「念仏を唱え申し上げさせよう」(2点)

※「念仏申させ奉らん」の現代語訳。

○「念仏を唱え(させ)る」+「おくする・く申し上げる」という謙讓の補助動詞の意+意志になっていれば○。

△「ん(む)」の意志が欠けている場合、△1点。

「傍線部③」「何と報じ、いかにむくいてかあまりあらん」の現代語訳。

A〇1点

B〇2点

(模範解答例)

どのように恩返しをし、どのように報いても余りあるうか、いやないだろう。【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A「どのように恩返しをし、どのように報いて」(1点)

※「何と報じ、いかにむくいて」の現代語訳

○「いかに」が「どのように」と訳してあり、「報じ」「むくい」が「お返しする・感謝する」の意にならなければ○。

B「余りあるうか、いやないだろう」(2点)

※「かあまりあらん」の現代語訳。

○「行き過ぎということがあろうか、いやない」というように、反語で訳していれば○。

問2 1点×2＝2点

アし イし

問3 1点×2＝2点

X(1) Y(3)

問4 5点

※傍線A「あらぬ言の葉にて息絶えぬるも心うく」の時の作者の心情を出来事をふまえて説明する。

(模範解答例)

A〇1点

B〇2点

C〇2点

父に念仏を唱えさせようとした結果、念仏以外の声で臨終を迎えさせてしまったことを後悔している。【5点】

☆各加点要素の加点の条件

A「父に念仏を唱えさせようとした結果」(1点)

※作者が「心うし」という心情にいたるひきがねとなったこと。

○「父に念仏を唱えさせ／進め ようとした」ために、「起こした」のような内容であれば○。

※「起こした」だけでは不可※。

B 「念仏以外の声で臨終を迎えさせてしまったことを」(2点)

※Aの結果により、作者が「心うし」となった出来事である「あらぬ言の葉にて息絶えぬる」の解釈。

○「念仏を唱えながら往生させることができなかつた」という内容。

C 「後悔している」(2点)

※「心うく」という心情の解釈。

○「後悔している・残念に思っている」のような筆者の心情。

※筆者の心情として示されていない場合は不可※。

※「後悔」「悔しい」「残念」というようなA・Bの出来事に対する筆者の心情として適したものでなければ不可※。例えば「つらい」は不可。

問5 6点

※傍線部B「むなしき煙にたぐひても、伴ふ道ならば」を、「むなしき煙」が何を指しているかを明示して言葉を補って現代語訳する。

(模範解答例)

A ○2点

B ○4点

火葬の煙と一緒にでも 父と共に行ける道ならばよいのになあ。

【5点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「火葬の煙と一緒にでも」(2点)

※「むなしき煙にたぐひても」の現代語訳。

○「むなしき煙」が火葬の煙。「父を火葬するときに出る煙」であることが明示されていること。「たぐ

ふ」は「連れ立つ・一緒に・並んで・たどって」など、「火葬の煙と一緒にについていく」と取れば○。

「たぐる」は※。「父を燃やした煙と一緒に」というような表現でも○。

B 「父と共に行ける道ならばよいのになあ」(4点)

※「伴ふ道ならば」の現代語訳。直前の「ただそのままにて、(父の)なり果てんさまをもみるわざもがな」にあらわれている父とずっと一緒にいたい気持ちも踏まえる。

○「父と一緒に行ける道があれば(よいのになあ)」の()のような言葉を補足して反実仮想とすること。そのニュアンスが無い場合▲1点減点、

▲「道」のヌケは▲2点減点。

問6 6点

※傍線部C「わが袖の涙の海よ三瀬川に流れてかよへ影をだに見ん」を、「影をだに見ん」がどうということかわかるように現代語訳する。

(模範解答例)

A ○4点

自分の袖にたまる涙があふれて海のように流れて、三途の川と合流すれば、

B ○2点

せめてそこに映る父の姿だけでも見ることができるとだ。【6点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「自分の袖にたまる涙があふれて海のように流れて、三途の川と合流すれば」(4点)

※ 「わが袖の涙の海よ三瀬川に流れてかよへ」の現代語訳。

※ 「三瀬川」は(注)に「三途の川」と説明されている。「三瀬川」のママは不可※。

○ 「袖の涙が流れて父が去った三途の川と合流すれば、(B袖の鏡に父が宿り、その姿を見たい)」というイメージで説明していること。

B 「せめてそこに映る父の姿だけでも見ることができるとだ」(2点)

※ 「影をだに見ん」の現代語訳。以下の①②がそろっていること。

① 「影」は「父の姿(面影)」。これが明示されていなければ不可※。

② 「だに・ん」の箇所が「だに」の希望の最小の用法「せめて…だけでも」及び「ん」が意志の助動詞。「だに」の解釈がなされていれば○とする。

〔四〕(漢文) 採点基準 (合計 45点)

問1 各6点

※傍線部①「春夏起役」を晏子が諫めた理由。

A○3点

B○3点

(模範解答) 農繁期に 農民から労働の時間を奪うから。【6点】

☆各加点要素の加点の条件

A「農繁期に」(3点)

○「農繁期」は、「農業にとって大切な時期」「農作業が大変な時期」「種まきの季節」などで○。

▼ポイントは「春夏⇨農繁期(種まきとか田植えをする農民にとって忙しい時期)」とわかっているかどうか。農繁期に民を楼台の造営に動員してはいけないと晏子は諫めている。「秋冬」であれば、「収穫のあとは」農閑期なので、民を労役に動員しても、そこまで大きな問題にはならない。

B「農民から労働の時間を奪うから」(3点)

○「農民から労働の時間を奪うから」は、「農作業の妨害をすることになるから」「農民が種まきできなくなるから」「農民が農作業できないから」などで○。

▼ポイントは「農作業ができないから」とわかっているかどうか。

問2 4点×2＝8点

② 4点

※傍線部②「相賢者国治」を現代語訳する。

A○2点

B○2点

(模範解答) 宰相が賢明な場合、 国は治まり、【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A「宰相が賢明な場合」(2点)

※「相賢者(相の賢なる者)」の現代語訳。

(1)「相」について、

○「相」を、「宰相」「首相」「総理大臣」などと解釈していること。

△「相」のままでも、「宰相」の意味で使っているとわかれば、△1点。

✖「相」を、「互いに」や「宰相」があっても、「君と宰相がどもに」などとしているものは不可✖。

(2)「賢者」について、

○「賢者」を、「賢明な場合」「賢人だと」「優れていれば」などと解釈していること。

- ✕ 「賢明な宰相は」「宰相が賢者であり」などは不可✕。
- 「…場合」「…だと」「…れば」といった仮定・条件の要素が必須。

B 「国は治まり」(2点)

- ※ 「国治(国治まり)」の現代語訳。「国」が主語、「治まる」が述語で自動詞。
- 「国が治まり」を、「国は安泰であり」「国家が落ち着き」「国の秩序は保たれ」などと解釈できていること。
- ✕ 「国を治める」「国家を統治する」などは文構造を誤解しているので不可。
- 「治」については「治まる」の訳として適切であること。

③ 4点

※傍線部③「子其息矣」を現代語訳する。

A ○ 1点 B ○ 3点

(模範解答) そなたは もう(言うのを)やめよ。 【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「そなたは」(1点)

- ※ 「子」の現代語訳。
- 「そなた」は、「あなた」などでも○。

B 「もう(言うのを)やめよ」(3点)

- ※ 「其息矣(其れ息めよ)」「の現代語訳。「其れ」は副詞で「もう」。指示語「それ」ではない。
- 「もうやめよ」は、「もうやめなさい」などと解釈できていれば○。
- 「息」については「息めよ」の訳として適切であれば○。
- 具体的に「もう言うのをやめよ」でもちろん○。「言うのを」は、あってもなくても可。
- 「其れ(もう)」「それを」については、訳出がなくとも可○。
- ▲ただし、「それを」(やめよ)「など、指示語としてしているなど、明らかに誤訳している場合は▲1点減点。

※傍線部④「文王」、傍線部⑤「楚靈王」は、どのような例として挙げられているのかを70字以内で説明する。

A〇2点

B〇2点

(模範解答)

「文王は、狩りをしないことで、

民の負担を減らし国を盛んにしたが、

C〇2点

D〇2点

「靈王は、乾溪に出兵を続けながら章華台を建設して

民を苦しめ、身を滅ぼした」例。【8点】

☆各加点要素の加点の条件

※AがBの例、CがDの例の関係になっていないものは要素があっても加点しない。

(二)(A) 文王は、狩りをしないことで (D) 民を苦しめ、身を滅ぼした」などは✖0点

✖「文王」・「靈王」が明示されていないものは不可✖0点。

○以下の要素以外のことには触れていても本文の内容と矛盾せず、解答の内容を変えない場合は不問。

▲本文の内容と矛盾する、論理的に不自然になる場合は、それぞれ▲1点減点。

✖余計な記述のせいで答案全体が意味不明なった場合は、全体✖0点。

A 「文王は、狩りをしないことで」(2点)

○「(周の) 文王は狩りをしなかった」に触れていれば○。

B 「民の負担を減らし国を盛んにした」(2点)

○「(周の文王は) 民の負担を減らした(かけなかった・少なくした)」もしくは「国を盛んにした(国を興隆させた・国を豊かにした)」に触れていれば○。

C 「靈王は、乾溪に出兵を続けながら章華台を建設して」(2点)

○(楚の) 靈王は乾溪に出兵を続けながら章華台を建設した(戦争をしながら民に重い労役も課した・戦争を続けながら楼台の建築もした・出兵して楼台の建設もした)」に触れていれば○。

✖本文に述べられている具体的な事例に沿って述べられていなければ不可✖。

D 「民を苦しめ、身を滅ぼした」(2点)

○「(楚の靈王は) 民を苦しめた(民に重い負担を課した・民の負担を増やした)」および「身を滅ぼした(民が反乱を起こした・反乱を招いた・殺された)」に触れている。ただし、前者はなくても「身を滅ぼした」ことにふれていれば可○とする。

問4 4点＋6点＝10点

(1) 4点

※「将危社稷而為諸侯笑」に返り点を付ける。

(解答) 将下危二社稷一而為中諸侯笑上 【4点】

(2) 6点

※「将危社稷而為諸侯笑」をわかりやすく現代語訳する。

A ○2点

B ○2点

C ○2点

(模範解答) 国家を危うくして 諸侯に嘲笑される ことぞしよう。 【6点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「国家を危うくして」(2点)

※「将危社稷而(将に社稷を危ふくして)」の現代語訳

○「社稷」を「国家」「国」などと解釈し、「国家を危うくして」のような訳であること。

B 「諸侯に嘲笑される」(2点)

※「為諸侯笑(諸侯の笑ひと為る)」の現代語訳

○「諸侯に嘲笑される」は「諸侯の笑い者となる」「諸侯に馬鹿にされる」などでも○。

C 「ことぞしよう」(2点)

※「将(将にくんとす)」の現代語訳

○「でしよう」「だろう」など、「いま陛下が改めなければ」と呼応した形になっていること。

※「今にも…しそうだ」「…するところだ」「…しようとしている」などは不可✕。

問5 6点

※傍線部⑦「君不聴臣、臣將逝矣。」を、すべてひらがなで書き下し文に改める。

解答 きみしんをきか ずんば しんまさにゆかんとす (と) 【6点】
A○1点 B○2点 C○3点

☆各加点要素の加点の条件

※書き下し文なので、解答はA↓B↓Cの順になっていなければ、全体×0点

A 「きみしんをきか」(1点)

B 「ずんば」(2点)

○ 「ずんば」は、「ざれば」でも可○。

C 「しんまさにゆかんとす」(と)「(3点)

○末尾の「と」はあってもなくても可○。

▲「…ゆかんとする」「…いかんとす」などは、誤字扱いで▲1点減点。

↓例えば、「しんまさにい~~い~~かんとする」なら▲1点減点×2＝2点減点。

問6 各1×4＝4点

a かつ b いくばくもなし c ゆゑ (え) に
d あらためずんば／あらためざれば

問7 1点×3＝3点

(1) 1点×3＝3点

(ア) (エ) (ケ)

☆各加点要素の加点の条件

○正解一つにつき1点を与える。

▲不正解一つにつき1点減点する。

※ () の有無は問わない。